

【背景・課題】

・外国人観光客の国立公園の利用が、物見遊山的な観光となっており、同じ国立公園の中でも観光地として有名な場所に利用が偏っており、国立公園全体の利用の広がり課題がある状況。

国立公園の利用を促進するために、自然そのものを楽しめる取組、仕掛けが必要。

【事業内容】

- ① 外国人観光客が、国立公園の自然について学んだ上でフィールドに入ること、国立公園の自然そのものをより楽しむ事が出来ることから、ビジターセンター、世界遺産センターなどの利用の起点で、自然のメカニズムを解りやすく解説するデジタル展示を導入し、国立公園を楽しむための解説の充実を図る。
- ② 外国人観光客を国立公園の他地域や近隣の他の国立公園へ誘導するために、インバウンド利用が多く、効果が期待出来る地区において、国立公園の魅力を紹介するデジタル展示を導入する。

【事業スキーム】

(直轄) 国→民間事業者等 【工事/導入に関する調査設計請負・一般競争】

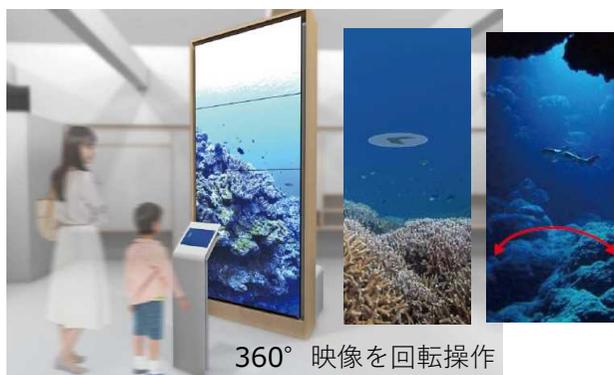
(補助) 国→地方公共団体 <補助率：1/2>

【効果】

訪日外国人観光客の国立公園の利用の促進がはかられ、滞在時間の延長やそれに伴う消費額の増、次回訪日時の候補地となる可能性の増加、満足度向上によるリピーターの増につながる。

+まずは国内旅行者増による地域経済と雇用の下支え・回復

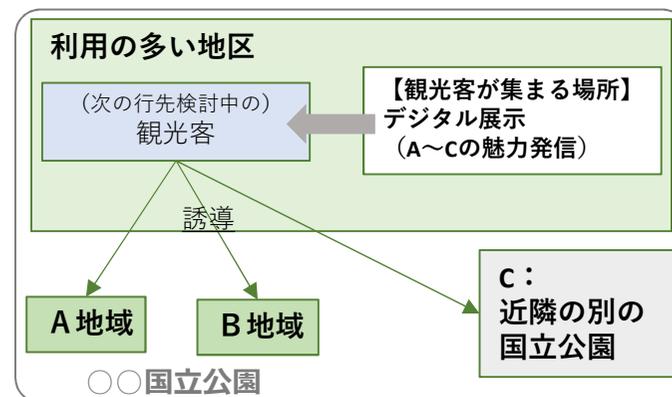
① 国立公園を楽しむための解説の充実



【想定場所】

国立公園の利用の起点になる場所（ビジターセンターなど）

② 国立公園利用の拡大（他地域への誘導）



【想定場所】

阿寒摩周国立公園は、知床国立公園や釧路湿原国立公園とも距離が近く公園同士で連携することで、効果的な情報発信が可能